

群馬県立太田高等特別支援学校 学校評価一覽表(令和7年度版)

(様式)

| 評価対象 | 評価項目 | 数値 具体的数値項目 | 関係する 分野 | 方 策 | 点検・評価 | | | 達成状況の分析 | 学校関係者評価 | 次年度の課題 | |
|-------------------------------------|--|---|----------------------------|---|---|-------------|----|---|---|--|--|
| | | | | | 自己 評価 | 外部ア ンケート | 総合 | | | | |
| Ⅰ 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。 | 1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えられていますか。 | ①学校公開を年間4日実施し、来校者の90%以上が満足している。 | 教育企画 | ・学校公開を7月と10月に2日間ずつ設定し、授業の様子や学習の成果を紹介する。 ・学校公開は、保護者及び実習先等関係者、本校を志望する中学生とその保護者にも案内し、本校の様子を広く知ってもらう機会とする。 | A | A | A | 7月の学校公開には2日間で97名、10月の学校公開には2日間で132名に来校していた。10月は中学生にも公開したことで、「知りたい」と思う本校の学習活動の様子を知っていただくことができた。生徒の興味が作業学習に取り組む様子も広く知っていただく貴重な機会となった。 | 新たな取組をしている前向きな学校であるとのこと。新しいことに取り組むというところは、とても勇ましいことである。その姿勢は素晴らしい、ぜひ継続してほしいと求めている。 | 生徒の学習活動を妨げないように配慮しつつも、より広くの方に本校の様子を知っていただくため、学校公開の開催時期と来ていただく方の対象を検討する。 | |
| | | ②Webページや学校からのたより等で情報発信を行い、保護者の90%以上が満足している。 | 情報管理 | ・Webページや学年通信等で生徒の学習活動を紹介する。その際、生徒の様子を的確に伝えられるよう、生徒の活動写真を多く掲載する。 ・Webページにおける活動紹介について、学年通信等で保護者に周知する。 | A | A | A | 100%の保護者から、本校のWebページや学校からのたより等の情報発信が、学校の様子を知る上で有用であったとの評価を得た。情報管理担当者が、学校行事のみならず学生の活動や授業の様子を随時Webページに写真を中心に掲載したためと考える。 | 先生方が親子で徹して生徒が生徒になっていた。和やかで、あたたかみがあり、生徒を思う支那の積み重ねが感じられた。Webページの充実も、保護者の立場として実感している。なかなか頻りに学校へ来たことができない中、授業や行事の様子を学校HPで確認できることは非常にありがたい。今後ともよろしくお願ひしたい。 | 今後も日本語を母語としない保護者や地域の方も理解できるように、写真等も多用した情報発信を心がける。また本校の最新情報が発信できるように、組織的に取り組む。 | |
| | 2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。 | ③「個別の教育支援計画」について、保護者の90%以上が内容に満足している。 | 学習指導 | ・保護者面談及びケース会議等において、「個別の教育支援計画」の内容について丁寧に説明し、合意形成を図る。 | A | A | A | 75%の保護者から個別の支援計画について満足しているとの評価を得た。教育相談や保護者面談などを通して、本人や保護者のニーズを把握し、「個別の教育支援計画」に生かすことができた。個別面談で確認を行うことで、内容についてさらに共通理解を図るよう努めた。 | 保護者面談を通して、本人や保護者の希望や要望を把握し、各欄について、空欄が無いように作成する。入力済みの内容であってもその都度確認し、加筆修正をする。卒業後の一般企業や福祉施設に対して提出するため、3年次7月の保護者会を通して、具体的に書いてもらうよう丁寧に説明する。 | | |
| | | ④交流及び共同学習について、年1回以上実施し、保護者や関係機関の90%以上が満足している。 | 交流教育 | ・学校間や地域の方々との交流を実施し、活動の様子をWebページや学年通信、保護者会、学校評議員会等で知らせる。 | A | A | A | 熱中症対策を講じた上で、地域の方や地域の高等学校と、スマイルボーリングやポッチャのゲーム、パン作りを通して、交流活動を行うことができた。一緒にゲーム等を行う中で、コミュニケーションを取ることができた。キャリア/スポーツや学年だより、ホームページを通して、保護者に活動の様子を周知した。 | | | |
| Ⅱ 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。 | 3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。 | ⑤地域の高等学校等の求めに応じて相談・支援等を100%実施する。 | コーディネーター | ・相談依頼内容に応じて日程調整を速やかに行う。 ・各高等学校のニーズに沿ったアドバイスができるように、学校風土なども理解しながら柔軟な姿勢で相談に当たり、実践可能な支援方法をアドバイスする。 | A | A | A | 要請に対して速やかに授業観察等を行い、助言をすることができた。また、深刻ではないケースの相談はメールで受け付けて助言することができ、よりスピーディーな対応をすることができた。助言内容を精選し、多量にならないようにすることで、すぐに支援を実践してもらえよう努めた。 | | 「訪問相談の記録」や「個別の指導計画」が該当高等学校の関係者に十分に共有されていない課題があるため、高等学校の特別支援教育コーディネーターに理解を求めるとともに、書式を工夫する必要がある。 | |
| | | ⑥学校参観日・相談日を中心に本校への来校者を積極的に受け入れ、来校者の90%以上が満足している。 | コーディネーター | ・地域の中学校・特別支援学校に対して、参観日や相談日の開催について通知する。 ・特に中学3年生とその保護者においては、開催日以外にも、必要に応じて相談日を随時設け、つねに対応する。 | A | A | A | 学校参観日への参加者数は約266人であった。相談日への相談者は、38人であった。来校者の96%以上が満足していると回答した。今年度は、実施日に応じて申込み期間を設けたことで、必要とする中学生が申込みしやすい形となった。相談日の対象を、「参観日に参加した中学3年生」に限定したことで、個別相談を必要とする中学3年生が予定日に申し込むことができ、有意義な相談日となった。 | | 「訪問相談の記録」や「個別の指導計画」が該当高等学校の関係者に十分に共有されていない課題があるため、高等学校の特別支援教育コーディネーターに理解を求めるとともに、書式を工夫する必要がある。 | |
| | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。 | ⑦「個別の指導計画」の内容について保護者の90%以上が満足している。 | 学習指導 | ・保護者面談等で「個別の指導計画」における具体的な目標や手立て等について話し合い、共通理解を図る。 | A | A | A | 72%の保護者が個別の指導計画に満足しているとの評価を得た。前々年度から「保護者面談」を設けてファイルで取り扱うように変更したが、そのシステムも定着している。面談などで保護者と話し合い、本人や保護者のニーズを把握するよう努めた。 | | 職員会議や研修等において、作成の意義や作成方法について、記入例や参考例を提示しながら職員の共通理解を図る。個別面談を実施し、保護者の要望をきき取りながら作成する。卒業後の生活を意識した目標設定や支援方法を策定する。 | |
| | | ⑧運営委員会、職員会議、学年会等において生徒の情報交換を毎実施し、生徒の些細な変化に対しても全職員で情報共有を行っている。 | 生活指導 | ・いじめの早期発見・早期対応や自防防止の観点から、職員一人一人の情報収集力、情報発信力を高め、情報を有効に活用していくための校内研修等を充実させる。 | A | A | A | 普段から教職員同士のコミュニケーションの中で生徒の様子やちょっとした違和感を話題にすることで、些細な変化にも気づくことができた。また、知りえた情報を抱え込まず、教職員間で情報共有し、組織的な対応をすることができた。 | | 会議等における生徒の情報共有だけでなく、教職員の同僚性を維持し、生徒理解に努めてきた今年度の取組を継続し、さらなる強化を図る。 | |
| | | ⑨生活習慣の定着を図るための家庭と学校が連携した取組に保護者の80%以上が満足している。 | 生活指導 | ・「あたりまえだどこ十か案」を活用し、月初めに別別重点項目を配布し、保護者へ周知する。またSNSを安全に扱うための情報モラル講習会やいじめ防止フォーラムの情報等を保護者に伝え、共通理解を図る。 | A | A | A | その月の行事に関わる重要項目を毎月配布することで保護者へしっかりと伝えることができた。96%という数字は保護者の関心と学校の情報提供が噛み合った事例であると考えられる。 | | 「あたりまえだどこ十か案」を活用して、生活習慣の定着を図るために、その月の重点目標の設定理由も伝える。振り返る機会を設け、さらなる充実を図る。 | |
| 5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。 | 4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。 | ⑩学校いじめ防止基本方針等に基づいた本校の取組に対して、保護者の90%以上が満足している。 | 生活指導 | ・本校のいじめ防止対策の取組を周知するために、保護者に取組みを配付し、ホームページに掲載する。また、いじめ防止等の取組アンケートを実施し、保護者からの率直な意見を反映し、より一層のいじめ防止に努める。 | A | A | A | 日頃からの教職員の情報共有や臨時・定例いじめ会議、入権週間の設定の他、いじめに対しては徹底的に対応するという姿勢やアンケートの実施やいじめ対応の取組をHPに掲載していること等評価された。 | | 第1回の時に生徒指導のことで意見を述べた件について、すぐに改善して頂いており素晴らしい。 | いじめには毅然とした態度で臨む姿勢を維持し、些細なことでも早期に組織的に対応する。アンケートの実施や下校指導等で生徒の内面的な変化を見逃さないよう注視している。 |
| | | ⑪研修係が中心となり、職員にとって有意義な校内研修による計画・実施する。 | 研修推進 | ・研修係が中心となり、職員にとって有意義な校内研修による計画・実施する。 ・一人2回以上他の教諭の授業を参観し、参観後は、授業者と意見交換をする。 | A | A | A | 93%の教諭が他の教諭の授業を2回以上参観し、授業改善を図ることができた。夏季研修では施設見学にも多くの教職員が参加し、生徒の進路選択に役立つ研修を行うことができた。今年度も外部講師を招き、「不登校生徒への対応」「てんかへんの対応」について研修することができた。専門家から学ぶことは多く、日々の支援方法を見直す有意義な時間となった。 | | 本校職員の自己研鑽につながるような校内研修等を計画・実施し、その成果が、生徒理解や授業実践に生かされるようにしていく。 | |
| | | ⑫生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上が満足している。 | 保健指導 | ・毎日の健康観察及び衛生検査を実施して、生徒の健康状態の把握と管理、生活習慣の確立に努める。特に学校生活で配慮が必要な生徒は、医師の指導に基づき、保護者と連携して適切な健康管理に努める。 | A | A | A | 98%の職員が生徒の健康上の配慮について保護者と共通理解をもって対応することができた。また、97%の保護者から、学校は生徒一人一人の健康上の配慮や対応を適切に行っているとの評価を得た。 | | 今後も医療機関と家庭と連携し、生徒が「基礎疾患等の管理」に努めるとともに、流行性の感染症等については、常に流行状況や具体的な対応、処置方法等の情報を提供し、共有し、家庭との連携を図りながら、生徒の健康や体調の管理に努める。 | |
| Ⅳ 健康や安全の確保に努めていますか。 | 6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。 | ⑬健康診断時に疾病疑いがあり、受診を勧められた生徒に関して、保護者及び担任、受診率(治療率)及び個別の受診状況を年3回以上報告し、保護者面談等で受診を勧める。 | 保健指導 | ・疾病疑いのある生徒(受診勧告者)に、結果受診後速やかにその結果を通知する。 ・疾病を持つあるいは疾病疑いのある生徒(受診勧告者)の受診状況等を把握し、保護者及び担任、「ほけんだより」や「学年だより」を活用し、受診率等を報告する。また、保護者面談等の機会に、受診や治療を個別に勧める。 | A | A | A | 91%の職員が「受診のすすめ」が通知された生徒について受診状況を把握し、保護者面談を通して受診を勧める等、保護者から協力を得られるよう努めることができた。受診率は62%であった。 | | 職員の情報・働きかけを継続し、実際の受診率向上(結果)につけていく。特に未受診率が低い項目(目玉、歯科等)に結び、重点的な受診勧奨を行い、前年度の受診率を5%以上回すことを目指したい。 | |
| | | ⑭危機管理マニュアルの見直し、改善を図るとともに、避難訓練や職員研修の実施を年間計画の中に明確に位置付ける。 | 安全対策 | ・危機管理マニュアルの見直し、改善を図るとともに、避難訓練や職員研修の実施を年間計画の中に明確に位置付ける。 | A | A | A | 100%の職員が危機管理に関する研修や訓練に積極的に参加し、緊急時の具体的な対応について十分理解していると回答した。 「地震避難訓練」(生徒の保護者への引きさし訓練)「火災総合避難訓練」「緊急放送訓練」を実施し、反省点、改善点等を職員と共有し、マニュアルの見直しを行った。 | | 避難訓練の実施にあたっては、訓練の内容や方法を一部変更するなどマンネリ化を防ぐとともに、実際の状況に即した訓練となるよう工夫を重ねたい。また、ブライント訓練(抜き打ち)や、多様な時間帯・場面設定(休み時間等)を取り入れ、応用力を強化しても良いかなど考える。 | |
| | 7 危機管理体制が確立されていますか。 | 安全対策 | ⑮危機管理に関する職員研修を年3回以上実施している。 | 安全対策 | ・普通救命講習(AEDの扱いを含む)や不審者対応等の職員研修を開催し、関係機関と連携、協力して行う。 ・危険箇所や危険状況が確認された際には、初期対応を直ちに行う。 | A | A | A | 救命講習(日本赤十字社と連携)、緊急時対応訓練(通報避難訓練)、不審者侵入時対応訓練(太田警察署と連携)を実施した。また、100%の職員が毎月の安全点検の確実な実施、危険箇所の報告など初期対応を直ちに行うことができた。 | | 今後も関係機関との連携を図り、危機管理に関する職員研修の実施と充実にも努め、生徒の安全確保及び迅速な緊急対応が図れるようにしていく。 |
| Ⅴ 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。 | 8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。 | ⑯進路学習について、進路講演会等を年5回以上実施し、保護者の90%以上が満足している。 | 進路対策 | ・進路講演会や生徒が体験的活動ができる機会を、年5回以上実施する。 ・学年主任会議で学年間の情報交換を適切に行う。 | A | A | A | 各種体験的な研修や進路講演会などの内容を工夫し、充実させることを心がけた。 | | 各種体験的な研修や進路講演会等において、生徒や保護者のニーズに合った内容にし、実施時期においても、指導段階に合った時期を検討する。 | |
| | | 9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。 | 進路対策 | ・支援協議会に進路指導主事が出席し、地域の障害福祉サービス事業所等と情報交換ができるようにする。関係機関との連携を深め、電話や電子メール、ワークショップなどで情報収集に努める。 ・ワークショップ、労働政策課、障害者職業生活支援センター(わーくさぽーと)と共催で企業向けの学校見学会を実施する。 | A | A | A | 地域の支援協議会が行事が多く開催され、情報交換および収集する良い機会となった。より関係機関との連携を深め、新規事業の情報発信に努めた。 | | 各関係機関との連携を深め、情報交換や収集に努め発信し、保護者への啓発を図る。企業や事業所への訪問を行い、障がい者雇用への理解や啓発を行う。 | |